

- | | |
|-----------|-------------|
| ◎ ふれあい・協力 | ◎ コミュニケーション |
| ○ 信頼関係 | ○ 達成感 |

対 象 学 年	
園 児	小学生(低・中・高)
中学生以上	

キャンドルセレモニー



プログラムの概要

この活動には、参加者が「ろうそくの灯りを囲んで行う」という以外には制約がありません。ここでは、セレモニアルファイヤー（儀式的の火）とボンファイヤー（親睦の火）について展開例を挙げて説明しますが、他にもカウンシルファイヤー（話し合いの火）やグループファイヤー（団らんの火）などがあります。

内容やプログラムについては、団体の実情に合わせて構成することをお勧めします。その際、国立妙高青少年自然の家での生活を振り返り、明日の活動（日常活動）へとつなげるように配慮するとよいでしょう。

所要時間：小学校低・中学年で1時間

高学年・中学生で1.5時間から2時間程度

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

キャンドルセレモニー

1 活動のねらい

- ・これまでの日常生活やキャンプ期間中の生活を振り返り、今後の生活に生かす実践的な態度をみつけることができる。
- ・キャンドルセレモニーの準備やグループの出し物（スタンツ）の練習及び発表を通して、グループメンバーのよさを認め合い、協力して活動ができる。

2 活動のフィールド

団体の人数及び等によってフィールドは異なりますが、以下の場所で活動が可能です。なお、それぞれの会場には、燭台と燭台用シート、個人用燭台が用意してあります。

- | | | | |
|------------|--------|------------|--------|
| ・プレイホール | 300人程度 | ・ミーティングルーム | 100人程度 |
| ・スパルホール学習室 | 50人程度 | ・スキルーム | 50人程度 |
| ・わんぱくルーム | 50人程度 | | |

3 準備品

団体・個人で用意する物：マッチまたはライター、

ろうそく（自然の家の食堂売店で購入することもできます。）

自然の家で用意できる物：燭台（図1）、燭台用シート（図1）、個人用燭台（図2）、ワイヤレスアンプマイク、マイクスタンド、延長コード（20mから50m）、投光器スポットライト（カラー）、CDラジカセ、アップライトピアノ、エレクトーン
キャンプソングのカセット（CD）、フォークダンスのカセット（CD）



図1 燭台と燭台シート



図2 個人用燭台

4 活動の手順

- （1）会場の下見をします。事前打合せの際にも下見を行っていただきますが、キャンドルセレモニーを担当される方は、活動当日にも下見をしておくといよいでしょう。
- （2）会場の準備を行います。燭台を使用する場合は、活動が始まる前に設置をしておきます。また、ワイヤレスアンプやマイクを使用する場合、事前に音量調節などもしておきましょう。

(3) キャンドルセレモニーを行います。

◆例1 セレモニアルファイヤー「儀式的火」

キャンプ最終日のまとめの活動として実施されることが多く、静寂な雰囲気の中で進行します。中でも、最初の迎え火のつどいと最後の送り火のつどいの部分に儀式的な要素を盛り込みながら行う点が特徴的です。

【展開例】

- ① 迎え火のつどい「火の神入場」「火の話」「点火」
- ② 交歓のつどい「キャンプソング」「スタンツ」「ゲームやフォークダンス」「スタンツ」「講話」
- ③ 送り火のつどい「火の神退場」「ふりかえり」
- ④ 後片付け



◆例2 ボンファイヤー「親睦の火」

ゲームやキャンプソング、フォークダンスなどできるだけ楽しい雰囲気を作り出しましょう。長期のキャンプや初対面の参加者が多いキャンプでは、参加者の緊張をほぐすためのアイスブレイクとして実施するとよいでしょう。

【展開例】

- ① 交歓のつどい「キャンプソング」「自己紹介」「ゲームやフォークダンス」「スタンツ」「講話や教育的な話」
- ② 後片付け



◆例3 カウンシルファイヤー「話し合いの火」

長期間にわたるキャンプでよく実施されます。キャンプの初日に行う場合は、オリエンテーションとしての機能をもたせて実施し、その意義や目的を伝えます。最終日に行う場合は、キャンプのふりかえりや反省などについての話し合いを行う場とします。

◆例4 グループファイヤー「団らんの火」

少人数のグループの場合に行います。特に計画された内容はありません。火を見つめながら自由に語り合ったり、歌ったりして参加者相互の理解や親睦を深めることをねらいとします。



(4) 会場と用具の後かたづけを行います。燭台を使用した場合は元の場所に収納し、会場の清掃を行います。借用物品については所定の位置に返却をします。なお、使用したろうそくについては、指導者が確実に回収し、処分するようにしてください。

- (5) ふりかえりを行います。ふりかえりは、キャンドルセレモニーの後半に行ってもかまいません。終了時刻が、遅くなる場合は翌日にあらためて行うとよいでしょう。

ふりかえりのポイント（言葉がけ）

- ・楽しく活動することができましたか。
- ・メンバーと協力して活動することができましたか。
- ・約束やきまりを守って活動することができましたか。
- ・キャンドルセレモニーでどんなことを学びましたか。
- ・今後の生活で生かしたいことはどんなことですか。



5 活動上の留意点

(1) 事前準備

- ・活動場所およびそれぞれの貸出物品については、事前の申し込みが必要となります。事前打合せの際に担当職員にお申し出いただき、さらに物品については「物品利用希望書」にも記載をして提出してください。
- ・プレイホール、ミーティングルーム、スバルホール学習室には、音響設備がありますので、ワイヤレスアンプとマイクの借用は必要ありません。
- ・ろうそくは、自然の家の食堂売店で購入することもできますが、その場合は、事前の申し込みが必要となりますので、ご注意ください。

(2) 安全管理と事前の指導

- ・活動中に火を取り扱いますので、安全管理についての指導を徹底するようにしましょう。

【例】・活動中にふざけない。

- ・転倒の危険あるので、ろうそくを持って歩く時はゆっくりと歩く。
- ・延焼の恐れがあるので、ろうそくの火を消す時は、手を振って消す など
- ・室内で活動しますので、必ず消火用バケツに水を入れ、万が一に備えるようにしてください。
- ・全員で厳粛かつ楽しい雰囲気作りができるように事前に指導をしておきましょう。
- ・出し物では、与えられた出演時間を守り、他のグループの出し物に対して惜しみない拍手を送るように指導をしておきましょう。



ねらい別活動プログラム集「キャンドルセレモニー」

発行日：平成20年2月28日

発行：独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立妙高青少年自然の家

<http://myoko.niye.go.jp/>

所在地：〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2

執筆：橋本 晃（企画指導専門職）